

市の第三
セクター

新会社誕生

八幡平市産業振興株式会社

市が50%以上を出資する第三セクター4社は3月1日に合併し、新会社「八幡平市産業振興株式会社」が誕生しました。合併したのはコスモプラザ西根、八幡平温泉開発、松尾ふるさと振興公社、安代産業振興公社。4月には安比塗漆器工房も加え、新会社設立3年目から黒字経営を目指します。担当は、市産業建設部商工観光課(☎76-2111、内線1262)。



新会社の銘板を掲げる代表取締役の田村市長(左)と上野吉農専務取締役。背景は、八幡平市産業振興株式会社の本社を置く自然休養村なかもやま荘

3月1日新会社誕生 八幡平市産業振興(株)

市が50%以上を出資する第三セクター4社は3月1日に合併し、八幡平市産業振興株式会社が誕生しました。合併したのはいずれも株式会社のコスモプラザ西根、八幡平温泉開発、松尾ふるさと振興公社、安代産業振興公社。4月に安比塗漆器工房を加え、新会社設立3年目からの黒字経営を目指します。

第三セクターの合併推進については、19年5月の経営者会議で確認。9月12日に4社で合併委員会を発足し、週1回のペースで協議してきました。10月29日には4社が合併覚書に調印。12月21日の株主総会で合併契約に合意し、合併契約書を取り交わして、新会社発足が正式に決まりました。

なかもやま荘内に本社 4つの事業部を設置

同社の資本金は3月1日現在で4億4091万円。このうち市は、54・49%の株式を所有しています。代表取締役には田村正彦市長が就任。本社を松尾寄木の自然休養村なかもやま荘に置き、4つの事業部を設置しました。旧4社の事業はすべて引き継がれます。各事業部の主な事業内容は次のとおりです。

八幡平温泉館森乃湯



生産物直売所道の駅にしね



松尾八幡平物産館アスピーテ



ワインなどのヤマブドウ製品



八幡平市産業振興株式会社・会社概要

社名	八幡平市産業振興株式会社
設立	平成20年3月1日
資本金	4億4,091万2,260円
代表者	代表取締役 田村 正彦(市長)
事業内容	給湯事業、温泉施設、産直施設、宿泊施設 テレトラック安代(一部業務)などの経営
社員数	100人(正社員28人、その他72人)
事業所	<p>【本社・総務経理部】 自然休養村なかやま荘内 八幡平市松尾寄木第2地割512番地</p> <p>【給湯事業部】 事務所(旧八幡平温泉開発株式会社) 八幡平温泉館森乃湯</p> <p>【物産事業部】 生産物直売所道の駅にしね 松尾八幡平物産館アスピーテ テレトラック安代</p> <p>【温泉事業部】 岩手山焼走り国際交流村 自然休養村なかやま荘 安代林業センター岩畑の湯 綿帽子温泉館あずみの湯</p>

第三セクターの事業運営は、住

スケールメリットを生かした効率経営へ

■総務経理部 本社で、総務や経理、営業などを一括して行います。

■給湯事業部 八幡平温泉館森乃湯を運営するほか、別荘地の不動産事業を展開します。

■物産事業部 生産物直売所道の駅にしね、松尾八幡平物産館アスピーテ、テレトラック安代の各施設を運営、ヤマブドウ製品の販売、4月からは漆器事業を行います。

■温泉事業部 岩手山焼走り国際交流村、自然休養村なかやま荘、安代林業センター岩畑の湯、綿帽子温泉館あずみの湯の4施設で、温泉・宿泊事業を運営します。

民福祉の向上などの公益貢献と事業収入(黒字経営)の二つの要素が求められます。旧3町村から引き継いだ第三セクター4社は、温泉事業や物産販売などの類似する事業が多くあり、合併により事業の効率化が図られます。また、誘客、観光振興、地場産業の取り組みが八幡平市として一元化され、スケールメリット(規模効果)を生かした経営を行うことができます。

同社では、総務経理部門を本社に集約し、収支の分析を図りながら経営戦略を検討。仕入れ部門と営業部門をそれぞれ一本化し、食材などの一括購入、情報の共有化、宣伝広告などで、経営の効率化と営業力の強化を図ります。

接客部門は、各施設の人事交流を行いながら共通認識のもとで、おもてなしの心と技術を磨き、調理師の交流を行うことで、食材の情報交換や新メニューの共同開発が期待されます。

3月中は新会社発足記念特典が満載です

八幡平市産業振興株式会社では、新会社発足を記念して、3月中にさまざまなイベントや特典を実施しています。皆さんのたくさんのご利用をお待ちしています。詳しくは、同社本社(☎78-2230)または同社各施設まで。